

まちづくり懇談会議事録【公開用】

日 時：令和元年 11 月 2 日（土）14 時 00 分～15 時 45 分

場 所：鳩山中央公民館

出席者：7 人

1. 開会

2. 町長挨拶

※配布資料確認および日程説明

3. 今年度のまちの動き（資料①）

質疑

4. これからのまちづくり（資料②）

5. 懇談

6. その他

(1) 出前型政策・施策説明会「栗山町のまちづくり」について

※質疑応答

7. 閉会

《質疑応答》

【栗山赤十字病院の改築問題・北海道介護福祉学校の存続・リカレントに関して】

町長：

日赤病院はこの中で一番大きな問題。建物自体をどうにかしないといけないが、町単独だと 70 億円から 80 億円もの費用がかかる。他の懇談会場でも意見が分かれており、町内に病院ができなくても、他の町と協力して病院を建てるべきという意見や、規模を縮小して町内に単独で作るべきという意見がある。何とか今年度中に方向性を出したい。

町民：

私の祖父母も父母も日赤病院でお世話になり、父は病院の設立にも関わったので愛着がある。先日行われた薬剤師さんの講演会では、総合福祉センターのホールが一杯になるほどの人が集まった。日赤病院のスタッフは優秀な方が多いため、日々の仕事が大変だとは思いますが、病院のことや持っている知識について、もっと町民に対しどんどん情報発信をしてほしい。

また、クローン病についての授業を介護福祉学校で受けた時は、とても役に立つ内容で、もっと町民に情報発信した方が良かったと思った。介護福祉学校で学んで資格を取った学生は、町外に出てしまわないよう補助金を出すなどして、町内に居てもらえるようどうにか対策してほしい。

全体的に、町民にそれぞれの組織の動きが見え、町民との結びつきがもっと強くできれば良いと思う。普通の仕事も大変だと思うが、町民から動きが見える機会を増やしてほしい。

栗山高校の生徒数が減少しているが、学業以外にも募金活動やボランティアなど、生徒の皆さんはとても頑張っていると思う。

義務教育の中ではできない、高齢者の「学び直し」の機会もあれば良いと思う。栗山高校の生徒数が減少している一方で、団塊の世代で高齢者が増加していて、興味がある分野を自分でチョイスして学べるような機会があれば良いと思う。

町長：

日赤病院や介護福祉学校も税金を投入しており、町民の皆さん認められるような努力は当然必要だと思っている。日赤病院の広域設置については難しいが、20年から30年後の受療動向をしっかりと見極め、町の医療水準についてもしっかりと見なければいけない。介護福祉学校について、定員を40人に縮小しても、3,000万円から4,000万円の赤字が出る。計画している4年間でどれだけの結果を出せるのか、町民の皆さんに示し認めてもらわなければならない。4年後に、3,000万円から4,000万円の赤字を出しても介護福祉学校は残すべきだという町民の皆さんの評価をいただければ存続できるだろうし、人が集まらないなら存続は難しい。

日赤病院にしても介護福祉学校にしても、今後2～3年の取り組みが大事だろうと思う。

教育長：

いろいろなことをやっていきたいというリカレントの要望には応えたいため、ニーズをしっかりと把握し、場合によっては栗山高校や介護福祉学校の力を借りて現実に行きたい。特に、介護福祉学校に関しては、非常にレベルの高い介護のノウハウを持っている。これから高齢化が進んでいった時に、自宅で介護する場面が増えていくことが予想されるが、同じ介護をするにしても可能な限り負担を少なくしたほうが良い。これから福祉課との協議を重ね、町民の皆様に学んでいただく機会、知っていただく機会を増やしていきたい。

栗山高校も努力しており、募金も自ら活動している。しかし、生徒の活動についてPRがうまくいっておらず、なかなか周囲に認知されていない。栗山高校も介護福祉学校も、もっと町民の皆さんに知っていただく努力をしていきたい。

町民：

リカレントとは？

教育長：

直訳すると「再教育」。日本語で言うと「学び直し」。これから学びたいことを学び直すこと。

町民：

鳩山にUターンして昨年戻ってきたが、日赤病院は20年から30年後の人口を想定して建て直す、という方向で検討しているのか。

町長：

栗山赤十字病院改築等検討委員会を設置したが、建物自体の老朽化・耐震性能の問題がある。入院患者や通院患者がいる中で一定の方向付けをして、今のうちに議論をしつ

かりしなければならない。広域連携についての協議や、日赤病院を公立化した場合のメリットとデメリットの比較、医療機関の誘致の可能性、日赤病院の改築改修、救急医療の体制構築など、議論をする内容が多岐にわたる。しっかり議論をして方向付けをしていきたい。

町民：

建て替えの費用はどのくらいか。

町長：

現在の 136 床を維持したとして、5～6 年前に試算をした時は約 70 億円から 80 億円だった。建築費が高騰しているため、同じ規模の病院をいま建てるとしたら、もっと費用はかかると思う。現在の病床稼働率は 8 割であり、病床数を削減すればその分建築費も抑えられるため、その議論が重要。仮に 100 床にして約 70 億円かかったとして、国からの補助金や借金をして、町の負担はおそらく約 20 億円から 30 億円だと思う。それを分割払いしていくことになるが、その支払いが将来できるかどうか。町の財政で賄える範囲の病院、医療水準を保つことが必要だと思う。本当は素晴らしい病院を作りたいが、町財政を考えると難しく、医療圏での役割分担なども必要。

町民：

引っ越してきて思ったが、風邪を引いたときにどこの病院に行けば良いのかが分からなかった。将来 20 年、30 年で分割して払っていけるものなら、いい病院を作るべきだと思う。岩見沢市立病院に行くことがあるが、飛び込みで行くと順番も最後にまわされたりする。

福祉総括：

町の内科としては、日赤病院、板垣病院、継立クリニック、長岡整形、にしみこどもクリニックがある。日赤病院には内科を含め、外科や耳鼻科、皮膚科などがあるが、全ての診療科が毎日やっているわけではない。どこの町も財政的に厳しく、どの程度の病院にしていくのか、といった問題は共通の問題。

【ごみの分別・ため池に関して】

町民：

栗山町に引っ越してきて、住み始めて不便だな、と思ったことがいろいろある。

6 年後に千歳市に焼却炉ができるとのことだが、町のごみの分別は岩見沢市に似ていてオリジナル性がないと思う。

道が農業用ため池の調査をしているとのことだが、自宅にも小さなため池がある。自分としては綺麗な状態で残していきたいが、現在ため池の中がどうなっているのか見たい。他のため池の使用方法や水質などを知りたい。

町長：

町民の皆さんが一番大変なのは生ごみの分別だと思う。それが 6 年後には燃やせるごみになるため、負担が軽くなるだろう。今後 6 年間は今の分別にご協力をお願いしたい。

建設総括：

個人所有のため池については、現在町では把握していない。各地域の農家さんには、一定規模のため池があれば届け出をしてほしいと案内している。

町長：

後ほど担当から連絡をさせていただく。

【防災対策に関して】

町民：

今後、冬の災害にはどのように備えるのか。胆振東部地震の際は、暖かい時期だったし水が止まらなくて良かったが、鳩山は停電の復旧が遅かった。もし冬に災害が起きたらどうしよう、とハラハラドキドキしている。避難所が遠く、行くまでに遭難してしまいそうな状況もあり、対応策について聞きたい。

また、これまで農村の防災訓練はなかった。農村地域は地域内での助け合いが非常に強いが、避難訓練を経験しておくと見えてくるものがあると思う。そういった防災訓練を検討してほしい。

町長：

おっしゃる通りで、今後は農村地域での避難訓練も検討したい。